



URA Forum 2010

編集者：逸見弘明
写真：ICET

Understanding,
Respect &
Acceptance



URAフォーラム2010が6月29日にDavidson高校で開かれました。URAフォーラムの主な目的は、十代の若者たちに、様々な文化背景を持った同世代の学生たちと一緒に、若者に関する様々な問題に対する意見や考えを交える機会を与えることにあります。今年はシドニーにある3つ学校（Davidson高校・Blacktown女子高校・Model Farms高校）から選ばれた58人の生徒とICETの生徒がDavidson高校のJan Jones Roomと呼ばれる部屋に集まりました。

今年のフォーラムのテーマは「理想の社会：グローバル化によってもたらされる社会の変化に私たちの生活はどのような影響を受けているのか。これらの変化に対応してよりよい生活を送るためには何ができるのだろうか」でした。フォーラムでは5つのプレゼンテーションが以下のグループによって発表されました：「マス・メディア」（Davidson高校11年生）、「多文化共生社会」（Blacktown女子高校）、「キャリア」（Model Farms高校）、「グローバル化社会での教育の役割」（ICET 11年生）、「家族」（ICET 10年生）。どのプレゼンテーションもよく準備されていて、質の高いもので、参加者はテーマについてのより深い理解を得ることができました。プレゼンテーションの後には、それぞれのプレゼンテーションのトピックについて、30分程度のディスカッションが行われ、それぞれの理解・知識・価値観を共有し合う過程を通して、お互いの意見を理解し、尊重し、受け入れることができました。

URAフォーラム2010会長のスピーチ（美甘莉甫・ICET/Davidson 12年生）



URAフォーラムは、多様な文化背景を持つ高校生が集まって現代の世界の問題について議論し、異なる意見やアイデアを共有して受け入れ合う場を与えることを目的として、2006年から毎年開かれてきました。今年のフォーラムのテーマは「理想の社会：グローバル化によってもたらされる社会の変化に私たちの生活はどのような影響を受けているのか。これらの変化に対応してよりよい生活を送るためには何ができるのだろうか」です。

グローバル化によって社会が急激に変化し続ける中、私たちの生活には数多くのいい影響、また悪い影響も起きています。今日は、グローバル化に起因する次の5つの現状・問題について議論をします。「多文化共生社会」「キャリア」「マス・メディア」「教育」「家族」についてそれぞれのグループがプレゼンテーションを発表します。今日のテーマに基づき、異なる見解を楽しみ、意義ある時間を過ごしてください。

ICETに関して

Inter-Cultural Education Today

ICET website: <http://www.icet.edu.au/>

URAフォーラムは、英語を母国語としない留学生が活躍する場を増やし、現地の学生と交流し、一緒に学習するだけでなく、英語環境の中でリーダーシップを執る機会を持つことを目的としてICETが主催するものです。

ICETは、NEASの認可を受けた語学学校で、Davidson High School、MacKillop College（ビクトリア州）、MLC Schoolなど現地のハイスクールと提携し、ユニークなカリキュラムを提供しています。現在の凄まじく変わり行く世界に適応できるだけでなく、責任ある市民として世界に貢献できる人材として活躍できる土台を作ることと教育理念とし、自己の啓蒙を軸とする教育を実施しています。生徒たちが他国籍の人々を対象に、ゼロから立ち上げ組織していくURAフォーラムは、その理念が形として出るひとつ場です。ICETの卒業生は、ここで培った土台に立って、大学やさらに社会においてグローバルな環境の中でそれぞれが選択した道を熱意を持って進んでいます。

マス・メディア

マス・メディアとは、広い範囲の人々に届くことができるコミュニケーション手段の総称です。テレビ、ラジオ、インターネット・広告・雑誌などがその例です。マス・メディアには数々の素晴らしい利点があり、わたしたちは日頃のその便利さを享受していますが、マス・メディアには数々の問題点があることが指摘されています。

問題点：

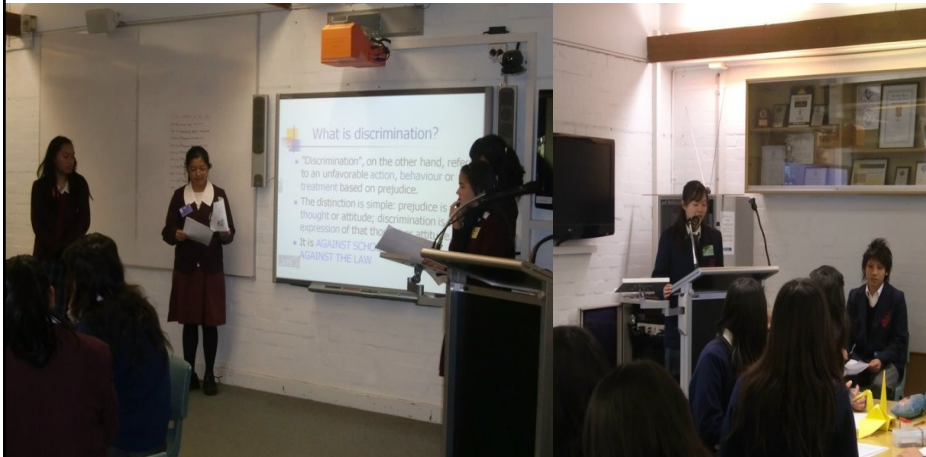
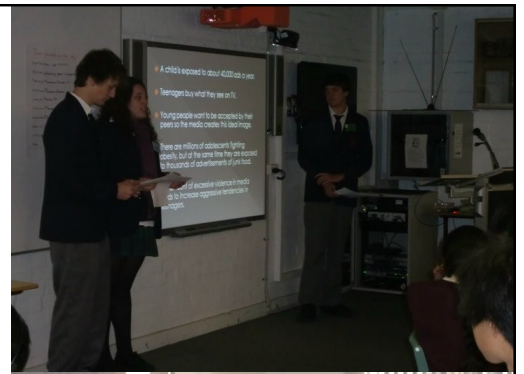
- 不必要で高額な商品やファースト・フードを買わせようとする過剰な数の広告・宣伝
- 性・健康（ダイエット・薬物など）・芸能人などに関する悪影響のある間違った情報
- 十代にとって「当然のもの」として描かれる暴力・性・薬物など
- 不健康で不適切な先入観・価値観などを植え付ける情報・イメージ
- マス・メディアへの過剰なアクセス

これらの問題点に適切に対処するためには：

- マス・メディアとのつながりを制限する
- 悪い影響や間違った情報を回避する方法を身につける
- 客観的に情報を判断する能力を身につける
- 安定した自己認識を持つ（影響されにくくなるため）

興味深い事実：

- 世界中に16,263,334,888人のインターネット・ユーザーがいる
- 一日にGoogleで20億回の検索が行われている
- iPhoneの55%が35歳以下によって所有されている
- 45%のカップルが携帯電話のメールを介して別れている
- 一日のべ30億分もの時間がFacebook上で使われている
- 11分につき1分が社交用ウェブサイトで使われている
- 1800万人のユーザーが毎日Facebookを更新している
- 子供たちは一年につき約40万の宣伝・広告にさらされている



キャリア



グローバル化によって人々、商品、金、情報の動きが地球規模に広がる中、キャリアは多くの変化を迎えています。現在の世界では、数え切れないほどの職業・職種が存在し、世界中の誰もがその職を手に入れることも可能になってきました。多くの国際企業が存在し、私たちに海外で働く機会を与えています。例えば、オーストラリアでは80万人が海外で働いています。

Model Farms高校のプレゼンテーションでは、特にエンターテインメント業界の職種についての調査が、世界規模に拡大した職種の一例として発表されました。世界的に有名になり活躍する4人のオーストラリア人俳優を例として見ながら、多くの職業が現代の世界で国際社会を舞台として活躍できる職種になったということを学びました。

多文化共生社会

オーストラリア人であるとはどういうことなのでしょう。あなたならこの質問にどう答えますか？アボリジニの人たちだけがオーストラリア人なのでしょう。それともイギリスから来た白人たちでしょうか。世界中からオーストラリアに移ってくる移民たちはどうでしょう？答えは、「これらのどれか1つだけがオーストラリア人ではなく、これらすべてがオーストラリア人」です。

Blacktownの生徒たちのプレゼンテーションを通して、私たちはオーストラリア人である、ということが何を意味するのか、より深い理解を得ることができました。オーストラリアはの様々な文化背景を持った約2200万の人々が共生する他文化国家です。この国には数え切れないほどの文化が存在し、「これがオーストラリア文化だ」というように、この国の文化を特定することは不可能です。

もしオーストラリアに1つの文化しか存在しなかったら、どれだけつまらないことでしょう。他文化国家であるオーストラリアでは世界中のどの文化とも何らかの繋がりを持つことが可能です。この国の多様性から、われわれは多くのことを享受し、恩恵を得ることができるのです。

グローバル化社会における教育の役割

グローバル化に伴って世界中が劇的な変化を続ける中、教育もその変化に対応して変わっていかなければなりません。以下は6つの点に関してのグローバル化社会における教育の役割です。

1.国際社会において個人に求められる質

- 効果的なコミュニケーション能力
- 言語能力：英語、スペイン語、フランス語、中国語
- 国際的経験・知識（ホームステイ・留学の経験、世界の歴史・世界情勢の知識、政治的・宗教的情勢の理解など）
- 確立した自己認識

2.教育としてのホームステイ・留学の役割

上記の国際社会人としての質を身につけさせる

3.文化交流

国際人として：

- 自他の文化について正確で客観的な理解・知識を持つ
- しっかりとした揺るがない自己認識を持つ

これらが国際社会での文化交流において価値を置かれ、効果的な国際人の特徴

4.教育とマス・メディア

マス・メディアは教育において、学習の効率の向上や幅広い情報源の提供などの面で役に立っている。しかし、数多くの問題を抱えており、教育がそれらの問題の解決の基礎として必要である。解決されるべき問題として、ネット上でのいじめ問題、メディア・リテラシー（メディアを扱う能力）の不足などが挙げられる。

5.グローバル社会におけるマナー

- 世界的に普遍なマナーはない
- 特定の意見・言動が多文化の人々との誤解や不和を生むこともあるため、それぞれの文化でのマナーを知っておくべき
- それぞれの文化の違いを受け入れる

6.国際社会への自主的な貢献

国際人として：

- 世界で起こっている問題を知る
- ボランティアとしてそれらの世界中の問題の解決に協力する



家族

プレゼンテーションはグローバル化社会における家族の次の3つの傾向に焦点を当てました：国際結婚、女性の役割の変化、増加する留学生の数。

国際結婚には利点と問題点の両方があります。利点には、子供が複数の文化の恩恵を得ることができることや、複数の言語を話せるようになることが挙げられます。問題点には、どちらの親の国籍に属しているのかに関しての子供の混乱、両親が離婚して母国に帰った際の親権問題などがあります。

社会における女性の役割の変化が、現在の晩婚化や少子化の傾向を生み出したと言われています。また職場においても、男女の労働条件の平等を保障する法律があるにも関わらず、雇用機会の低さ、低収入、職場での地位の低さなどの、女性に対する差別は未だに存在しています。

グローバル化によって留学生の数は増加を続けています。留学によって人は精神的に成長し、文化的な経験を得られ、有能な国際人としての素質を得ることができます。

ディスカッションの中では、私たちは国際結婚が家族と子供に与える影響と、母親の不在が家庭に与える影響について議論しました。人間の人生の基礎として良い家庭環境があることが欠かせない、ということで全員が一致しました。



編集者の言葉（逸見弘明・ICET/Davidson11年生）

URAフォーラムの参加者たち全員が、世界のこと、他の人々のこと、そして自分たち自身について深く知ることのできる非常に貴重な学習の機会を与えられたことを認識するべきでしょう。十代の生徒の誰もがこのような素晴らしい経験を得られるわけではありません。しかし、このイベントから得られる数多くの恩恵について参加者が気づくのは、まだ少し先になってからかもしれません。

URAフォーラムは十代の私たちに学習の機会を与え、自身の知識や理解を他の同年代の生徒と共有しあう機会を与える場です。普段の私たちの生活では、このフォーラムのように、様々な文化背景を持った人々の多様な意見や価値観に触れる機会はほとんどありません。たった六十数人の生徒が特定の問題についてどれだけ異なった意見や姿勢を有しているかが良く分かったと思います。また、この多様性こそが人間の文化、信条、物事への対応などの多様性の要因なのです。そして、最も重要なこととして、その多様性の中で近い将来私たちが暮らし、働いていくのだということを肝に銘じておくべきでしょう。残念ながら現実には、このフォーラムで取り扱った問題も含めて、数え切れないほどの世界規模の問題が山積みになっており、その数は更に増え続ける一方です。このフォーラムで、将来の世界のリーダーとしての私たちにとっては、将来対処していかなければならない世界の問題に真剣に向き合い、解決のために知恵を出し合ういい練習になったと言えるでしょう。

オーストラリアの生徒にとってもこのフォーラムはいろいろな点において困難を伴うものだったと思いますが、ICETの生徒にとってはこのフォーラムはすべての点においてとても大きなチャレンジでした。

URAフォーラムはすべてICETの生徒によって企画・運営・準備され、その膨大な準備過程の中のすべてに全員の絶え間ない努力があり、熱意があり、自分の時間を割いてまでの献身がありました。このフォーラムは最初は無から始まります。何も無いところからこのフォーラムのような大きなものを作り出すのは容易なことではありません。ブレインストームを重ねてアイデアを出し合い、ディスカッションを何度も繰り返し、今回のメインテーマとディスカッション・トピックにたどり着きました。重要なことはすべて1ヶ月前から計画を立てて調整を重ね、毎週火曜日の放課後にはフォーラムの中心メンバーでミーティングをして、時には数時間に及びました。恥ずかしさを抑え、ひかると私は11年生の学年集会でURAフォーラムへの参加者を数回募集しました。準備期間の末期には、毎日のように夜の9時まで学校に留まって、必死に数週間前に終わっているはずの作業を終わらせようと苦闘しました。

私にとっては2回目のURAフォーラムで、去年もURAの実行委員会に入ってプレゼンテーションを発表しました。去年の数々の失敗から学び、今年は同じ失敗を繰り返さないと自分に言い聞かせていながらも、今年もまた失敗が重なり悲惨な準備過程になってしまいました。私は今年は11年生のプレゼンテーション・グループのリーダーでしたが、リーダーとしての自分の能力について自問自答を続ける日々でした。ICETの生徒に海外でリーダーシップを取る非常に貴重な機会を与えるURAフォーラムがきっかけで、私自身のリーダーシップの弱点や問題点について気づくことができました。未熟なリーダーシップのせいもあって、私たちのプレゼンテーションは当日の29日になっても完成さえしていないという危機的な状態でした。

URAフォーラムはすべてが英語で行われなければならないため、一部のICETの生徒によれば、ICETのプログラムの名で最も過酷で大変なイベントと言われてます。私たちの英語を磨くための素晴らしい機会ではあるのですが、この挑戦に立ち向かう自信が持てないためか、このフォーラムのような有益ではあるが困難なイベントを回避したがる傾向があるようです。外国語で大勢のネイティブ・スピーカーの前でプレゼンテーションを発表し、外国語でネイティブ・スピーカーと複雑な議題について議論をすることがどれだけ大変で、どれだけ緊張することか、想像することはできるでしょう。

留学ではいくつもの挑戦や困難を克服しなければなりません、どれも避けて通ることはできません。URAフォーラムという1つの大きなチャレンジを乗り越え、他のどの参加者にもまして特に、ICETの生徒はこのURAフォーラムから多くを学びとることができました。



参加者の感想

URAフォーラムのようなイベントに日本にいたときでも参加したことがなかったので、すべて英語でやった今日のディスカッションはとても難しく感じました。思ったことを表現したり、いいアイデアを思いつくことはできなかったのですが、ただディスカッションを聞くことしかできませんでしたが、最後のトピックは私たちICET 10年生のトピックだったので、ディスカッションに参加して自分の意見を言うことができました。もっと英語を練習しなければならないことと、考える力がまだまだ足りないということに気づきました。私たちのプレゼンテーションは成功だったと思います。フォーラムのための準備はとても大変でしたが、みんなで助け合ったからこそ今日のプレゼンテーションが成功したのだと思います。
(遠藤萌夏・ICET10年生)

URAフォーラムは私にとって、とてもいい経験になりましたが、自分の意見を言えなかったことは残念でした。ディスカッションのメンバーがとても優しくかったので、「YES」か「NO」を言うことはできました。もっと勉強が必要だと実感しました。
(滝口真由・ICET10年生)

今日のURAフォーラムはとても楽しむことができました。BlacktownやModel Farmsの生徒とディスカッションをして意見を共有することができました。プレゼンテーションとディスカッションを通して、お互いのことを知ることもできました。ICETの11年生と12年生は英語が上手ではっきり話せて、ディスカッションにも参加できていたので感心しましたが、私は彼らのようにはできませんでした。来年に向けてよりいっそう頑張って勉強しようと思いました。
(中屋大貴・ICET10年生)

URAフォーラムのために何時間もかけて一生懸命頑張ってきましたが、今日は素晴らしい時間を過ごすことができました。私たちのプレゼンテーションは「家族」についてでした。このトピックについてあまり深く考えたことがなかったので大変でした。大勢の生徒の前で発表するのはとても緊張しましたが、とてもいい機会になりました。またこのようなイベントがあれば是非参加したいと思います。
(山田真子・ICET10年生)

URAフォーラムは大成功でした。私たちはたくさんのリサーチと練習を重ねてこの日のために準備してきました。私は日本語で見つけた情報を英語に訳したり、プレゼンテーションの原稿を作ったりするのを手助けしました。見たことのない難しい単語がたくさんあって、かなりの時間がかかりました。プレゼンテーションが完成したときには疲れきっていました。もしお互いに助け合っていなかったら、今回のような成功はなかっただろうと思います。私たちのプレゼンテーションは他の生徒にたくさんの有益な情報を与えたと思いますが、他のグループのプレゼンテーションからもたくさん学ぶことができました。英語が原因でプレゼンテーションの内容すべてを理解することはできませんでしたが、自分の意見を発表することはできました。意見を言ったときには、他の人たちは納得してくれて、英語で話す自信に繋がりました。今日はグローバル化に関する問題について考えるととてもいい機会になりました。またURAフォーラムのようなイベントがあれば参加してみたいと強く思います。
(石本博正・ICET10年生リーダー)

長い期間に渡って準備をしてきたので、URAフォーラムが成功して嬉しく思います。たくさんの笑いや楽しい会話があったので今日は思いっきり楽しむことができました。プレゼンテーションのそれぞれが個性的で興味深いものでした。休み時間には他の学校の生徒との会話を楽しみました。今日は素晴らしい日になりました。
(川井ひかる・ICET/Davidson 11年生)

URAフォーラムは私にとって素晴らしい経験になりました。興味深い議題について話し合ったり、意見を交換し合ったり、他の生徒の前でプレゼンテーションを発表したりできたとてもいい機会でした。大勢の目の前で発表することに少し自信が持てるようになった気がします。私たちのプレゼンテーションはなかなか完成させられない大変なものでしたが、一生懸命になって完成まで全員で協力しました。最終的にはとてもいいプレゼンテーションになったと思います。他のプレゼンテーションの内容を理解できたり、オーストラリアの生徒とディスカッションができたり、いろいろな学習体験ができたので、今年のURAフォーラムは個人的には去年よりも充実したものになりました。
(岡崎早紀・ICET/Davidson 11年生・副会長)

私は、このフォーラムでほかの学校との連絡を取る仕事についていました。プレゼンテーション自体には関わりませんでしたが、このフォーラムを通じて、人々の異なった観点や意見など、たくさんのことを学ぶことができました。日本人としての自分のアイデンティティを見つめなおすいい機会となりました。とくに、自分のディスカッション・グループのメンバーに日本のことを話すときは、自分はやっぱり日本人なんだなあと再認識させられました。

このフォーラムで、私はオーストラリアと日本はとても違うということに改めて気づかせられ、そして、私たち一人ひとりが自分のバックグラウンドに誇りを持つと同時に、お互いを理解し尊敬しあって受け入れられるようになるべきだと思いました。世界中の人、特に未来を担う私たちの世代がこのことを理解して、より世界が平和で住みやすい場所になればと思います。
(高尾由紀・ICET/Davidson 12年生・連絡係)

私にとって二回目のURAフォーラムでした。私とは大きく異なるたくさんの生徒たちと一緒に活動することができた素晴らしい一日になりました。私自身の経験を共有し、また他の人の経験からも学ぶことができました。どのプレゼンテーションも素晴らしく、学ぶことの多い内容でした。今年もとても楽しむことができたので、来年も参加したいと思います。
(Rachel Ferrett・Blacktown女子高校11年生)

URAフォーラムは素晴らしい経験になりました。ICETの生徒たちを出会い、彼らの英語の成長に驚かされました。話し合った議題はどれも興味深く、私たちBlacktownの生徒たちの考え方と他の生徒の考え方がとても似ていたことに驚きました。
(Naillah Rahmatullah/Blacktown女子高校9年生)

URAフォーラムはグローバル化に関する問題について議論しあう素晴らしい機会になりました。他の学校の生徒と出会って話し合ったり、日本のICETの生徒との交流もいい経験になりました。プレゼンテーションはよく準備されていて、興味深い情報をたくさん含んでいたため、深く楽しむことができました。来年も参加できれば光栄です。
(Jessica Small・Model Farms高校11年生)

URAフォーラムは他の学生と現代の問題について話し合うとても刺激的で素晴らしい機会になりました。ディスカッションのグループをテーブルで分けるのはとてもいい考えだと思いましたが、最初は全員緊張してぎこちなかったのですが、フォーラムの初めに何か参加者の緊張を解して、お互いに知り合えるアクティビティがあれば更に効果的だったと思います。ICETの日本人の生徒がプレゼンテーションを発表するのを見て、とても勇気付けられた気がします。来年のためにURAフォーラムを友達にも紹介したいと思います。
(Veneta Bailey・Model Farms高校11年生)

